

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000118		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホームピオニー		
所在地	栃木県大田原市山の手2-13-31		
自己評価作成日	平成23年11月12日	評価結果市町村受理日	平成24年1月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、いっしょに、楽しく」を事業所理念とし、お一人おひとりのペースを大切にしながら皆様との共同生活していただけるように心掛けています。季節の行事を通して、また、時候の移り変わりを肌で感じていただけるように日常的な外出の支援にも務めているところです。第2回となりました湘風祭そして東地区公民館への出品を通して地域との関係作りにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは併設されている小規模多機能型居宅介護事業所の2階にあり、大きな窓ガラスからは日差しがさしこみ、天井に描かれた青空と白い雲のデザインもあって明るい雰囲気を感じ出している。食事の際は入居者を急かすことなく時間をかけ、食後は入居者が居間で思い思いの過ごし方をしている様子からも、「ゆっくり・いっしょに・楽しみながらその人らしさを大切に」という理念が生活の場で実践されていることが窺える。昨年に引き続き「湘風祭」を開催して地域住民等に来てもらって一緒に楽しんだり、公民館の文化祭に入居者の作品を展示する等、地域との交流への取り組みが進められている。また、年間研修計画を作成して毎月職員研修を行ったり、職員に個人年度目標を立ててもらい運営改善への意識付けを図ったり、「入居者の担当職員がフェイスシートを作って入居者個々人に合った生活リズムや日課の作成を目指す」という取り組みを始める等、様々な方法で職員の資質向上と運営の改善を図っていくとする事業所の運営姿勢は評価できる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68		○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」という理念のもと実践に努めている。特に、その人らしいゆったりとした時間を過ごしていたるように努めている。	入居者の食事の際は遅くなってしまう方を急かすことなく終えるの待っていたり、トイレへの誘導も時間をかけて行うなど、全体の流れがゆったりしている。ホーム開設時から勤務している職員が多いこともあり、理念の理解が十分なされ実践場面に反映されていることが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会に加入している。日常的な関係は回覧板が回ってくる程度だが、公民館の文化祭に参加させていただいたり、湘風祭を実施し、地域の方に観覧いただいたりとの連携に努めている。	昨年度に引き続き「湘風祭」を開催し、地域の住民や事業所を招待して、コンサートや喫茶などの企画と一緒に楽しんでいる。また地元の屋台祭りの山車をホームの前に止めてもらい入居者が山車を背景に写真を撮ったり、消火訓練に近隣住民の参加協力を呼びかけるなど、地域との関係作りに取り組んでいて、交流が深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	湘風祭での作品展示やコンサートで一緒に音楽を楽しんでいたたり、手作りのお菓子で喫茶を行ったりしながら事業所から発信する機会を設け行きたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーからの提言によって入居者が手がけたランチョンマットなどの手工芸作品を今年も大田原市東地区文化祭に出品させていただいた。また、利用者様の外出や楽しみについてのご意見をいただきしている。	市担当者・地域包括支援センター職員・民生委員・地域代表者・家族の参加を得て、併設事業所と共催で年6回開催している。家族からの要望を受けて外出の機会を増やすなど運営の見直しをしたり、地域代表者から地元の行事等の情報を得て入居者を参加させるなど、会議の結果をホームの運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大田原市介護サービス事業者連絡協議会の地域密着部会等で意見交換が行っている。	事業者連絡協議会等で情報交換したり運営推進会議で運営上の課題に助言をもらうなど、市担当者との連携が図られている。スプリンクラー設置に関しては市から指示やアドバイスを受けて昨年度末に設置が完了した。震災後は市担当者が状況把握のために度々ホームを訪れ、物心両面から支援をしてくれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人尊重のケアを実践し、身体拘束を引き起こす場面が出現しないように努めている。2階の階段出入口・エレベータも夜間のみの施錠と今年よりなった。	昨年度虐待防止対応マニュアルを作成し、今年度職員研修も実施して身体拘束のないケアの徹底を図っている。エレベーターの昇降ボタンのオフと1階への階段に通じる出入口の施錠については解決すべき懸案であったが、職員全体で検討の結果、昨年度末から両方とも日中は解錠状態にしている。職員が見守りをより一層徹底するという取り組みをしていることもあって、特に問題もなく運用されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を通じて権利擁護の熟知をはかっていると共に入浴介助等、日常生活の中で身体異変に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修等を通して、制度への理解を関係者と共に図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基にして説明とその理解を確認すると共に入居者が新たな生活確立するために家族の理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主として介護計画見直し時に意見や要望を聞き、入居者のよりよい生活になるように入居者とその家族との話し合いを行っている。なお、日常的な希望などに即応している。	介護計画の見直しに当たっては、「サービス担当者会議」を開催して入居者の家族に出席してもらい、出席できない家族には電話で連絡を取って、意見や要望の把握を行っている。毎月の経費は事業所に支払いに来てもらうようにして、入居者への面会の機会を設けるとともに、職員と家族との話し合いの場としても活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議を中心に、日常においても施設長・管理者とも職員の申し出に答えるようにしている。	毎月の職員会議や各種会議で職員からはたくさん意見や提案が出されている他、介護計画作成担当者が時々職員一人一人に声かけをして意見の聞き取りを行っている。また、全職員に対して個人年度目標の作成をしてもらい、各職員ごとの課題の把握や運営の改善に向けた意識付けを図る取り組みを実施している。	個人年度目標の作成により、職員の資質向上や運営の改善を図る取り組みを行っているものの、目標達成状況の把握や分析・評価がまだ十分に行われていないので、こうした前向きな取り組みがどうしたら十分な成果をあげられるか、今後検討していくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り労働条件の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の定期的研修を行い、外部からの案内を回覧して周知を図っている。事業所間の合同研修も実施して職員の情報の共有にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田原市介護サービス事業者連絡協議会部会等や県の補助事業を利用した複数事業所連携の企画も具体化させている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は本人の思いに傾聴することを心がけ、良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来訪時には現況をお知らせし、ご家族様の意向や思いにも寄り添うよう耳を傾け、安心感を持ってもらえるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時にご本人様・ご家族の思いや意向の聞き役となり、共に解決策を見いだせるよう話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の中で得意とされていた料理の味付であったり、編み物や縫い物を入居者から教えをもらうなど、人生の先輩として教えていただいたりしながら共に生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の日常生活情報を細かく提供するようにすることでご家族との良い関係が継続しながら共に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の小規模多機能施設に知り合い通われていて時々事業所間を行き来することもある。	入居者の家族や親戚が面会に来たり、一緒に外出する例がほとんどであるが、入居者と以前他の施設で知り合った併設事業所の利用者が時々訪問してくれて仲良く会話をしたりしている。また、時々併設事業所の利用者と入居者が一緒にお茶のみをする機会を設けて交流を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の片付けや食前食後の作業などで共同作業になるように支援したり、気持ちが合いそうな人同士が隣り合わせになるように座ってもらったり、あるいは、入居者同士で不穏になったりした場合は積極的に介入したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談の電話をいただいたりしている。必要に応じて積極的に相談に応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や仕草を観察することで興味の対象あるいは好き嫌いなどを探り、心地よさが何かを見いだすように心がけている。	入居者それぞれに担当職員を決めて、生活場面の中で個別に関わる時間を見つけ、生活歴や今思っている事を聞いたりして本人の希望や意向の把握に取り組んでいる。言葉の少ない入居者については顔の表情や動作などから意図を読み取り対応することで、落ち着いた心地良い生活をしてもらうようにしている。	目標達成計画に挙げた「入居者毎の担当職員がフェイスシートを作成しケアプランに添って各個人毎の生活リズムや日課について検討していく」という取り組みを開始している。まだシート作成中の段階とのことであるが、今後こうした意欲的な取り組みを継続し、目標が達成できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には必ず生活歴、得意だったことやこだわっていたもの、さらには住まいの間取りなどを把握して入居後の生活に安心感を早く持てるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が観察に努め、変化の状況を共有検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がその人らしく居心地良く穏やかに暮らすための課題とケアのあり方について本人・ご家族・職員と話し合い、それぞれの思いや意見が反映されるよう介護計画を作成している。	介護計画の見直しの際は入居者の家族の参加を得て「サービス担当者会議」を行っており、電話で家族に意見や意向を確認する方法も取っている。また計画作成担当者が職員から個別に意見を聞いたり毎月の定例会議でケアカンファレンスを行い、そうした結果を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録と日報、それと申し送りノートによって情報が共有され、日々のケアの修正や介護計画見直しへの蓄積となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得て、デパートや美容院、外食又は住み慣れた自宅への立ち寄りなど気分転換を図るなどしている。又、地域の祭り、展覧会、食材・おやつの買い物等で出掛けている。1階部分が同法人の小規模多機能型居宅介護施設となっていることから、散歩の帰りにお茶に立ち寄ったり、お互い行き来し交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用、開拓まではできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続して診てもらっている。通院介助は基本的には家族が行っているが、看護師の資格を持つ計画作成担当者もできるだけ同行し、状態を報告するなど主治医との連携を深めている。受診に同行できない場合は電話や時に手紙を持たせるなどし、確実に主治医に入居者の状態が伝わるようにしている。	入居者者のほとんどが継続して入居前の主治医に通院していて、受診時の付き添いは基本的には家族が行っているが、可能な限り職員も同行している。家族だけの場合は入居者のホームでの生活状況を書いた手紙を家族に渡し、主治医に情報が伝わるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に専従の看護職はいないが、看護師の資格を持つ介護支援専門員にアドバイスをもらって適切な支援ができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、かかりつけ医と連携し、紹介状などの入手、家族への状況説明など行い、不安の除去に努める。入院してからも状態把握や病院関係者との情報交換や相談のため面会し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期の医療ニーズの高くなった場合の施設としての対応、できる範囲や協力病院、主治医との連携について提示説明している。常に入居者の状態については家族と情報を共有し、状態の悪化、医療依存度が高くなってきた場合も家族と話し合いを重ね、不安の除去に努めている。	入居時に終末期におけるホームの対応について家族に説明している。どのような状態になるまで入居していただけるのかという不安を持つ家族に対しては、入居者の状態に合わせたホームの支援方法や、医療ニーズが高くなった場合の入院や他施設等への入所などの具体的な選択肢についての説明を行い、出来る限り家族の不安解消を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命法の講習を受講(毎年12月～1月)、職場内研修でも緊急対応を取り上げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災対応訓練を年2回実施している。地震や水害に対応した災害訓練については今年から実施を検討している。	昨年度末にスプリンクラーの設置を完了し、夜間想定避難訓練や地域住民が参加した消火訓練なども実施している。3月11日の震災時は入居者を全員1階の併設事業所に移し、半月程共同生活を行うことで安全の確保に努めた。今後の対応として備蓄品のリストアップや入手方法の点検を行ったほか、災害別対応マニュアルの作成も計画している。	ホームが2階にあることから、災害時の避難方法や職員への緊急連絡体制など、入居者の安全確保に向けた体制作りにより一層取り組むことを期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症接遇マニュアルを作成し、「個人の尊重」を一層強化している。	認知症接遇マニュアルを作成して職員に研修を行い、適切な支援の周知徹底に取り組んでいる。職員は入居者のペースに合わせて人格を損ねないように先回りしすぎない行動を心がけているほか、思いやりの言葉使いでやさしく話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは様々な場面で「好き」「嫌い」を職員が入居者に問いかけることや傾聴の態度をとれるようにして、入居者の自己表現を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、手を出しすぎないように注意して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候、温度などに合わせてご本人に衣服選んでいただけるよう声掛けしたり着脱を勧めたり、爪のチェック、髪の長さを見ながら家族にヘアカットを勧めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けやテーブル拭き等出来ることは積極的に関わってもらうように努めている。また、食材やおやつの買い物に行ったときなどにも好みで選んでもらうように努めている。	週3日は職員が手作りし、後は配食業者と近所の魚屋の調理済みのおかずを利用しているが、その時もごはん、お汁、おやつは職員が作っている。食事時間はまちまちで1時間かけている方もいる。テーブルの下に足が載せられる台を用意している方もおり、姿勢よく食事ができるようにしている。職員がおやつや食材の買い物に出かける時は入居者1名が同行し、好みの物を選んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往症を考慮しながら個々の摂食量に対応した盛りつけを行っている。また、食材以外の水分量は1日1Lを目安に飲み物を様々用意している。食事量と水分量は排泄チェック表に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の残存能力に合わせて食後の歯ブラシあるいは義歯洗浄を行っている。一緒に行うことで清潔が保てる場合もあり、その人ごとの支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品は極力使用しないことを基本にして、生活パターンと残存能力に応じた誘導や排泄用品の使用に努めている。支援のやり方については家族も含めた関係者の検討の上決定している。	リハビリパンツやバットを使用している入居者がほとんどだが、排泄チェック表を確認しながら3か所あるトイレに誘導して排泄を支援している。本人の希望で夜だけオムツを使用したり、回数の多い方をトイレの近くの部屋に当てたりしている。また、夜中に入居者が動くときベットのついてる鈴が鳴って職員が気がつきトイレに誘導するなど、排泄の失敗がないように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら、飲食物や運動で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の個浴でゆったりとした入浴を楽しんでいただいている。時にはゆず湯、菖蒲湯や入浴剤を使うなどしてお風呂にバリエーションを用意している。	入居者は週に2～3回午前中に入浴をしている。順番になっても入りたがらない場合には何回か時間をずらして誘うなど本人の希望を優先している。菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯で変化を持たせ、入浴を促すとともに楽しんでもらう工夫をしている。職員は1対1での対応を行い、入居者はゆっくりした時間で安心して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の短時間での朝寝や昼寝、室温調整や湯たんぽ使用などで睡眠環境が快適になるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表や臨時薬等の変更を申し送りノートと日報で職員に周知するなど、一人一人の状態と関連させた支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や歌唱、洗濯物干しや食器片付け、そして、生け花や手芸等々一人一人の出来る範囲で楽しんだり、仕事をしていただいたりしています。生け花や手芸については事業所の文化祭や地区文化祭に出品し始めた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週2回は買い物に1名同伴している。また、外出記録で事業所外に出していない人をチェックしている。また、天候が許す限り、庭に洗濯物を干しに行ったり、あるいは1階の小規模多機能事業所へ出かけたりしている。また、外出ドライブで外食を楽しんだりしている。	週2回お買い物外出を入居者1名同伴で行っており、主に食材やおやつ等を購入している。家族との外出も含め外出記録をチェックして入居者がまんべんなく外出できるようにしている。全員での外食や見学も行われており、今年の紅葉は遠出せず中庭で職員持参の盆栽とお弁当での鑑賞を行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することに制限はしていないが、ごく限られた人しか所持していない。また、所持を希望する人や消費を希望する人がいないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、毎季節に合わせて切り絵や手作りカレンダー、生け花や誕生日のポスターなど、共用空間の飾りを変えることを行っている。	ホームは2階に位置しているので日差しが良く入り、居間の天井には青い空と白い雲の絵が描かれて明るい雰囲気である。テーブルには入居者が紙粘土で作った花瓶に庭の赤いさざんかの花が活けてあり、壁にクリスマスの貼り絵や季節の塗り絵、誕生日のお知らせなどが貼ってある。日中は居室で過ごす方は少なく、ソファでテレビを見たりお話ししたり昼寝をしたりと、ゆっくりした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	可能なだけ一人ひとりの居場所や話せる場所づくりが出来るようにテーブルやソファの配置に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族から在宅時のベッドの位置を確認してから配置するなど、本人の混乱を少しでも避けるようにしている。また、出来るだけ馴染みの物品を用意していただけるようお願いしていて、ぬいぐるみや写真を飾ることで安心されている方もいる	居室は大きさも作りも色々あり、ガラス窓にはカーテンだけでなく障子が入った部屋もある。ドアには花の絵と入居者の名前が書かれたプレートが掲げられている。自宅で使っていた馴染みのタンスやベッドを家族と相談して配置している居室や、お気に入りのぬいぐるみや写真、誕生日カードをテーブルに飾ってある部屋もある。入居者が居心地よく過ごせる居室になるよう、折りにふれ家族に話して協力を求めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で衛生的な環境を心掛けている。		